

2(2) その他, 特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果, 世界的位置付けなど。(評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容)**特筆すべき教育活動**

平成17年度より振興調整費の支援で実施してきた「高度環境政策・技術マネジメント人材養成ユニット」の中間評価がJSTにより行われ、最高評価であるA評価を獲得した。

日中韓3カ国の7大学が連携し、各大学から優秀な後期課程学生を選抜して、夏期に4週間かけて各大学を歴訪するRESD(Regional Environment & Sustainability Development)プログラムを実施した。初年度の学生は9名で、プログラムを通して各国の環境問題を理解するとともに、学生間の強い人間関係を築くことができた。

平成20年6月にJAPEXによる海外寄付講座をインドネシアのバンドン工科大学内に開設し、現地での入試によって、バンドン工科大学より2名の前期課程学生、1名の後期課程学生を環境科学研究科の学生として受け入れた。研究科より教員を派遣して現地で英語による講義を行うとともに、学生を1ヶ月間仙台に招へいして研究を行わせた。

特筆すべき研究活動

本研究科の田路和幸教授が「ナノカプセル素材に関する研究」で平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞し(20年3月)、高橋弘教授が「繊維質固化処理土・ボンテランによる高含水比泥土の再資源化技術」で平成20年度国土交通大臣賞を受賞した(20年6月)。その他19件の学会賞・論文賞を本研究科の教員及び学生が受賞した。

本研究科の田路和幸教授および古川柳蔵准教授が、リチウムイオン電池を中心とする新しい太陽電池の利用技術開発について、スマートグリッドの考え方を提案、日本の大手企業10数社とともに、これからの環境エネルギー分野を先導している。また、微弱エネルギー蓄電型エコハウス技術開発事業(環境省)では、世界で始めて家庭への直流給電の方法を提案し注目を浴びている。

特筆すべき社会貢献活動等

環境科学研究科の教授が中心となって、NPO法人、「環境エネルギー技術研究所」を設立した。第17回および第18回環境フォーラムを開催し、市民・県民に環境に関連する情報発信を行った。第6回環境技術シンポジウムを開催し、本研究科で推進している微弱エネルギー蓄電によるエネルギー枯渇問題への新規な対策について情報発信を行った。

みやぎ県民大学および出前授業を開催し、環境問題解決のための科学技術について講義した。また、エコプロダクツ2008において環境科学教室を開催した。

宮城県、仙台市、東北経済連合会と本研究科の連携による環境教育・研究センターを設立した。本研究科の教員が、自治体等の環境関連委員会等の委員長および委員として貢献した。